

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和3年4月分）

【製造業】

- 製造業は、2月の鉱工業生産指数が前月比3.4%と上昇。ヒアリングでは、自動車関連を中心に需要が回復しつつあり、工場の稼働率も堅調に推移しているとの声が多くあった。

【地場産業】

- 地場産業は、2月の鉱工業生産指数が窯業・土石と木材・木製品、食料品で上昇したものの、家具、繊維工業、パルプ・紙で低下した。新型コロナウイルスの影響により、医療用ガウンなどの需要はあるもののメンズスーツの売れ行きが厳しいとの声や、レストラン向けの商品の売上が落ち込んだなど、ヒアリングでは厳しい声が多くあった。

【設備投資】

- 設備投資は、3月の金属工作機械受注額が国内向けで28ヶ月連続で前年を下回ったが、海外向けでは5ヶ月連続で前年を上回り、全体としては2ヶ月連続で前年を上回った。ヒアリングにおいては、IT関連の設備投資を加速させる動きが見られた。

【個人消費】

- 個人消費は、家電大型専門店で前年同月比11.9%、ホームセンターで同2.2%、コンビニで同0.9%と増加したものの、ドラッグストアで同▲5.3%、百貨店・スーパーで同▲1.2%と減少し、全体では同▲0.4%となった。ヒアリングにおいては、前年に見られたまとめ買いの傾向があまり見られなくなるなど、消費行動に変化が起きつつあるとの声が聞かれた。

【観光】

- 観光は、新型コロナウイルスの影響により客数は観光地、宿泊施設ともに前年同月を下回った。3月1日から国の緊急事態宣言の解除に伴い、不要不急の外出や移動の自粛が緩和されたことで観光入込客数は2月に比べて増加。宿泊施設へのヒアリングにおいては、先行きが不透明であり、未だ全社員が出勤できるだけの売上がないなど厳しい声が多くあった。

【資金繰り】

- 企業の資金繰りは、3月の制度融資実績は、引き続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からのヒアリングでは、3月末で終了した無利子融資が終了し、借り入れの申込みが落ち着いている、との声があった。

【雇用】

- 雇用面は、3月の有効求人倍率が1.34倍と2ヶ月連続で減少した。ヒアリングでは、人材の余剰が発生しており雇用調整助成金が終了することを危惧する声があった。一方では他業界からの出向者を受け入れる動きがあるなど、業界や企業によって雇用状況に差が見られた。

【景気動向】

2月の景気動向指数（一致指数）、3月の中小企業の景況感はともに上昇した。